

西公民館

松前校区愛護部主催キャンプ

7月21日(日)・22日(月)、1泊2日のキャンプ生活を城川町龍澤寺緑地公園で行いました。5台の車に、新調した鉄板、ドラムカンのかまど、プロパンガス、食料品、ゲームの準備物などを積み込みました。

2階建てバス2台には幼児・小学生から中学1年生までの子どもたち68名と保護者30名が乗り出発しました。総勢98名のキャンプ生活の始まりです。

自主的なふれ合いができるように、異年齢の子どもたちを10班に分け班編成をしました。準備した班旗のもと、班



▲ジュージュー、いい音、いい匂い

▼すいかはどこだ？



長が中心になっての生活です。行く途中で長浜に立ち寄り、開閉橋を見学しました。陸上交通を遮断しての橋の開閉を目の当たりに見る事ができました。

公園では自由行動。ドッジボール、大型スベリ台(200m)などゲームで汗をかきました。

夕食のバーベキューではお腹のすいた子どもたちの食欲に驚かされました。「もう食べられない。」と言いながら肉をほおばっています。

夕食後は、龍澤寺本堂での座禅です。和尚さんの説明に従って、両足をももの上に乗せ、尾骨を座布団の真ん中にし、背筋を伸ばす。丹田(へ

▼朝のすがすがしい空気を胸いっぱいすいこんで！



そ下)に力を入れ、複式呼吸をして息を整えます。一同、瞑想している間はシーンとして、緊張感がみなぎったひとときを過ごすことができました。座禅の体験は初めてで、すばらしいものになりました。

きもだめしでは、お父さん方がひそかに工夫したものを持ち寄り、すばらしい連けいにより、子どもたちはおびえたり、笑ったりと楽しむことができました。

家族キャンプとは違った、人と人との出会い、ふれ合いができ、子どもたちは良い体験ができました。

愛護部の役員さん方の献身的なご奉仕により、すばらしいキャンプ生活ができました。

補導センターだより

心の友だちづくり

松前小学校生徒指導主事

岡田修司

「先生。ハリーポッター読んだ？あれ、おもしろいよ。」 やんちゃ坊主が、分厚い本を片手に興奮して話す。家から持参したとっておきの本を交換し、読み合う。こんな光景が今、松前小学校では日常的な光景である。

「朝読書」。毎朝8時から10分間、自分の好きな本をただひたすらに読む。時には新聞記事の読み聞かせをしたり、紙芝居を楽しんだり工夫もあり、児童一人ひとりが想像の世界を広げる。世間では、テレビゲームの普及などの影響から、子どもたちの活字離れが指摘されて久しいが、本校ではむしろここ数年、逆転現象が起きている。

さらに、思いがけないプラスの効果も。校内でのケガの発生率が、実施以前の年に比べ半減しているのだ。はつきりと因果関係があるとは言いが切れないが、読書は落ち着いた雰囲気づくり・沈着な生活リズムづくりにも役立つとい

るに違いない、と思われる。「継続は力なり」。ほんのわずか10分間の取り組みではあるが、こつこつ毎日続けることによって、子どもたちは着実に力をつけている。論より証拠、ある児童の日記の一部を紹介したい。

私は、本を読むのがすつごく好きです。一冊読み終えてまた次の本を借りるときは、ワクワクします。前は、本を読むのが苦手でした。でも、友だちに「江戸川乱歩」さんの本をすすめられて読み出してから、好きになりました。今後いろいろな本を読み、みんなに紹介したいです。本は私の大切な「心の友」です。

夏休みを終えようとしている今、「親子読書」もおすすめてほしい。やがて迎える「読書の秋」に向けて、いいきっかけづくりになり、長い目で見れば「心の友だち」にも数多く出合えるであろうから。